

倭寇と松浦の地②

～倭寇は海賊か?!・倭寇の活動～

分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

■倭寇の活動

倭寇は、一口で海賊と呼ばれているが、その活動は単純でなく、単なる略奪のほか、密貿易もあった。

始めの頃は、日本の南北朝期、九州は相次ぐ戦乱による荒廃と天候不順による凶作続きであったから、生きるため独自の海外侵寇となった。そして、その目的は、たいていの場合、米麦などの食糧と農村労働力としての人とそれに船の獲得であった。

『高麗史』には、1350年倭寇の激しい略奪の記録がある。高麗は、日本に対し、たびたび禁寇を要求したが、幕府は戦乱を口実に不可能を回答している。このように、前期倭寇は主に朝鮮半島沿岸の侵寇であった。この倭寇は、朝鮮の李成柱の火砲の威力にて、かげりをみせ1392年頃には終息する。1392年、李成柱は、朝鮮国を建国。倭寇にたいしても交渉。幕府には禁寇を求め、通交となる政策を行い、この結果交易を認める文院引制や歳遣船制となる。松浦党各氏との交易の記録も残っている。ここまでを、前期倭寇といっている。

一方、後期倭寇の記述は、中国へと舞台を移す。特に、後期倭寇では、中国大陸から海上に出て、密貿易で荒稼ぎする中国人が出てくる。ここでは、中国人が主役で、時として、日本人がガードマンとして雇われていたこともある。当時の貿易品は、日本からは、「銀、武器、硫黄、扇子」であった。中国からは、「硝石、生糸、陶磁器、水銀、麝香」であった。

「武器や硫黄や硝石」は、武器や火薬の原料となるものである。

特に、明朝にとっては、治安を乱すものだけに、受け入れられない品であるが、1369年ころ、九州を支配していた征西将軍、懐良（かねよし）親王にとってはこれらの物資が重要な軍備調達であったから、明からの禁寇を黙殺した。

この後、明と室町幕府との間では、勘合貿易、つまり、明が正式の朝貢船であることの勘合符を発給することで、公式かそうでないかを見分けることにした（1404年～1547年）。ともかく、上記の品々は、倭寇にとっては、格好の密貿易の品々であった。

◎引用・参考文献（出典）

- ◆ 『倭寇』 太田弘毅著
- ◆ 『唐津市市』
- ◆ 『鎮西町史』
- ◆ 『図説、日本の歴史』
河合敦著
- ◆ 『浜玉町史』 上巻
- ◆ 『厳木町史』
- ◆ 『末盧国』 松浦史談会著

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html